

日中両国の高齢化の比較、展望並びに今後の協力

馮文猛

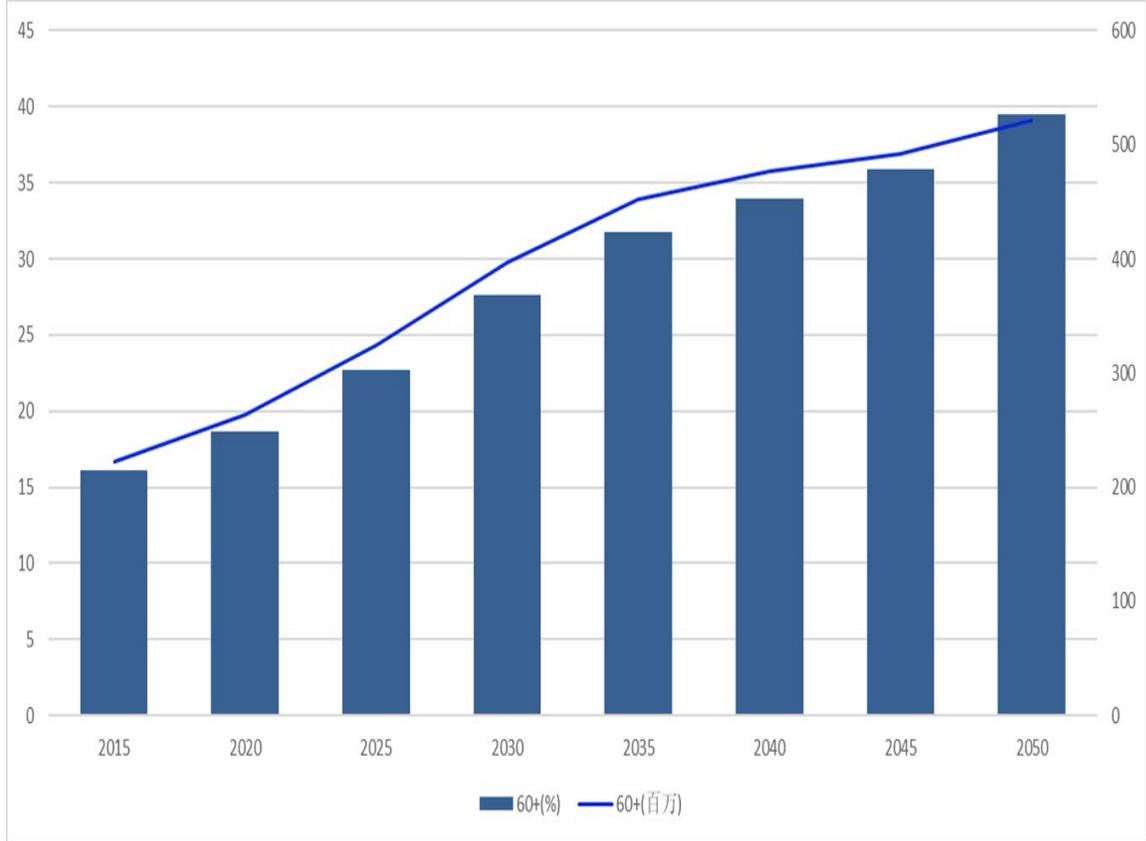
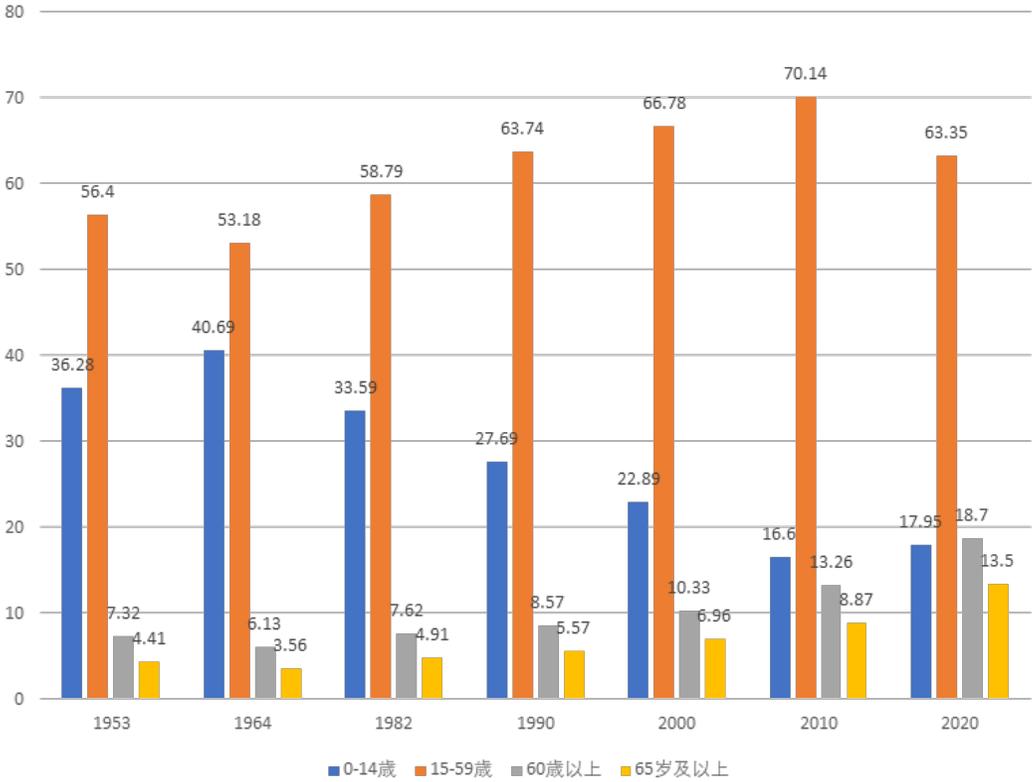
目次

- 日中両国における人口高齢化のトレンド
- 協力可能な分野

一、日中両国における人口高齢化のトレンド

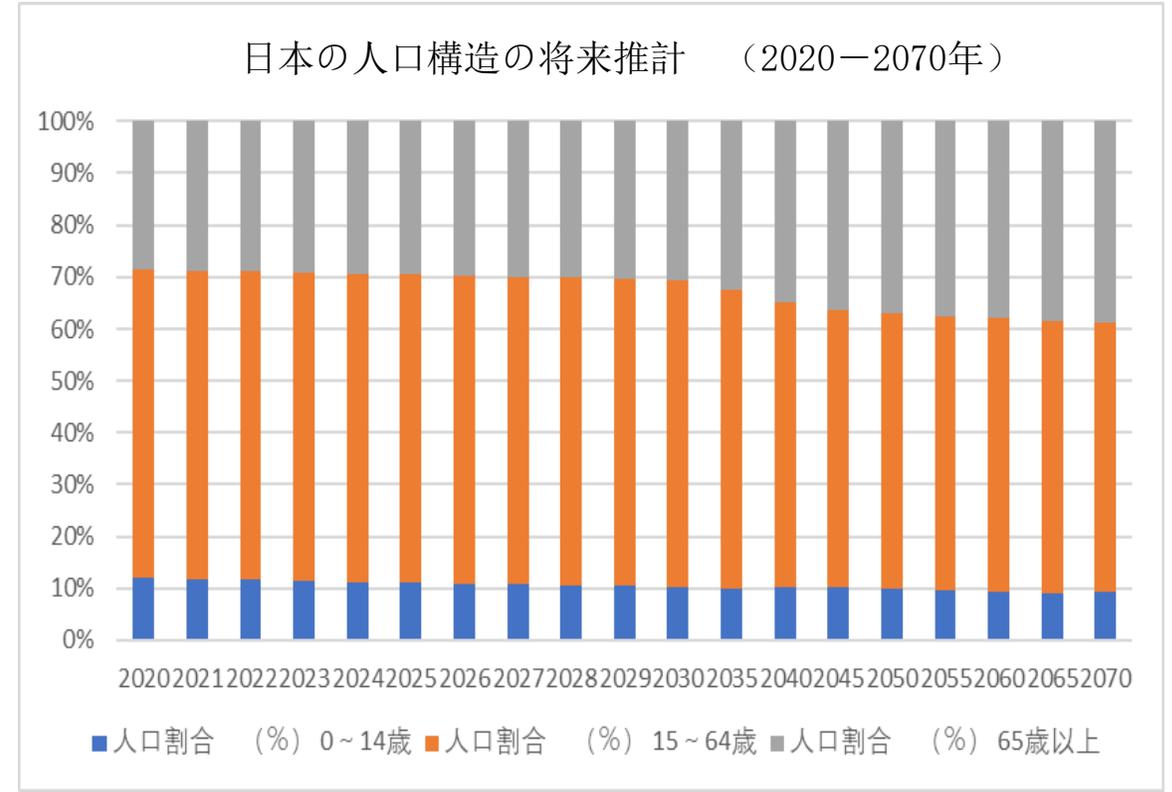
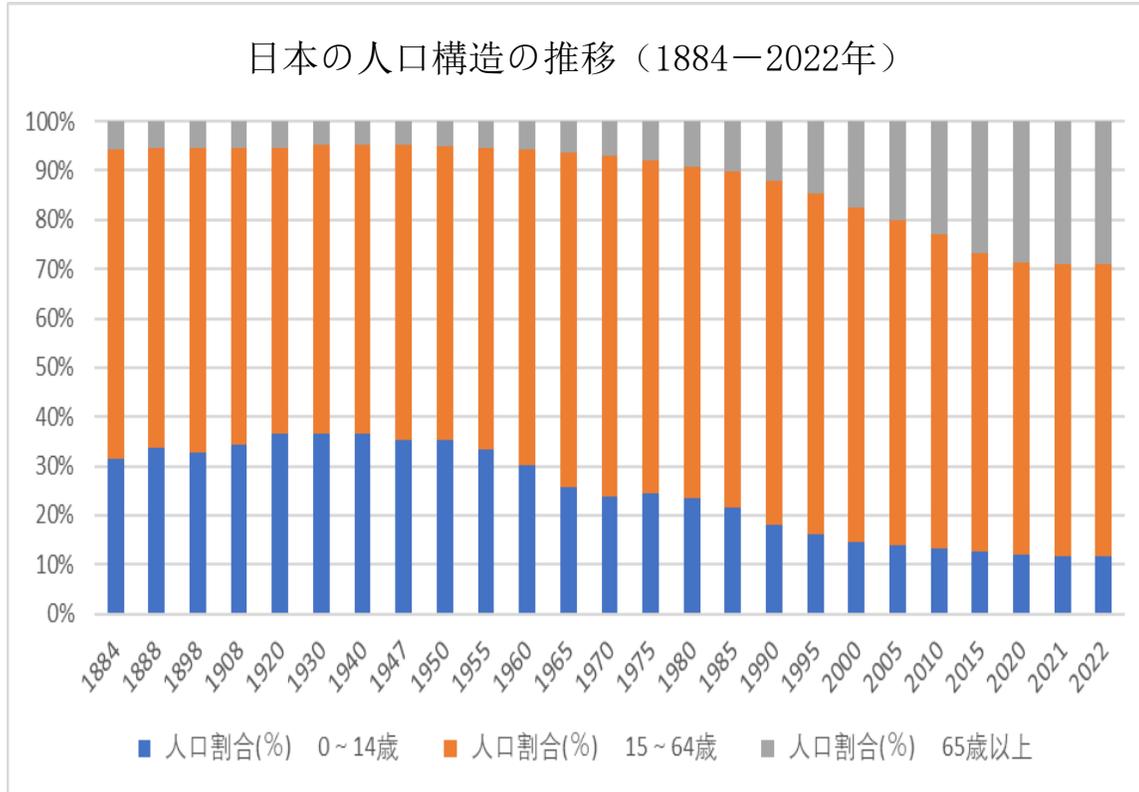
中国の人口高齢化

国勢調査における人口構造の推移 (%)



中国は2000年に高齢化社会に、2021年に高齢社会突入した。2023年時点で、60歳以上の高齢者の数は総人口の21.1%に当たる2.97億人に達した。

日本の人口高齢化



日本は1970年に高齢化社会を迎え、1994年に高齢社会に突入した。2023年9月15日時点で、65歳以上の高齢者数は総人口の29.1%に当たる3,623万人に達した。65歳以上の高齢者数のピークは2045年の3,945万人、総人口に占める割合のピークは2070年の38.7%になると推計される。

各分野に及ぼす人口高齢化の影響

▶経済分野

--生産労働人口の減少、労働力年齢の上昇、投資モデルの変化、イノベーション駆動の変化、社会的扶養の負担増、シルバー産業の振興

▶社会分野

--家族関係の変化、医療・介護等社会的ケアのニーズの高まり

▶ガバナンス

--ハードとソフト両方からエイジ・フレンドリーな社会づくりを進める必要がある

二、協力可能な分野

人口高齢化とその影響に関する共同研究の実施

- ▶ヘルシー・エイジング：対策及びメカニズムの研究
- ▶アクティブ・エイジング：対策及びメカニズムの研究
- ▶デジタル技術の活用等：新分野を共同で模索

都市計画と高齢化に適した住宅等の改修

- 2011年の日本をヒントに、老朽化した団地を改修
- 中国が現在推進している三種類の高齢化に適した住宅の改修

全国のモデルとなる高齢者に優しいコミュニティーづくり

- 2020年の下半期に準備を開始
- 複数の観点から建設基準、都市・農村の区分を模索
- 2021年から毎年、全国で1,000カ所を選出
- もたらず経験:

在宅介護に軸足をおいた介護サービスの発展

- 20世紀90年代の世界から始まったモデルチェンジ
- 世界における在宅介護の3つのレベルで構成された基礎:
- 第13次5カ年計画（2016年）から始まった地域での実践
- 現在の進捗状況

高齢者向け商品の開発

- 高齢者向け商品の応用における現実的な意義
- 中国における高齢者向け商品開発の現在の進展
- 『シルバー・エコノミー26条』
- 世界における高齢者向け商品の発展状況及び将来のトレンド

介護人材の育成

➤世界が直面する共通課題

➤2009年福岡東アジア人口高齢化専門家シンポジウムの示唆

VS

➤日中両国の相互協力の歴史的な基礎

➤看護チームの変化と将来のトレンド

医療と介護の連携 全国においてモデル地区とモデル施設を選出

- ▶健康は高齢者の生活にとってのコアバリュー
- ▶近年の実践状況
- ▶全国における100の医療・介護連動型のモデル県・区・市及びモデル機関の選定
- ▶意義及び将来のトレンド

スマート技術の活用

- 「三助（3つのサポート）」のコアバリューの実現
- スマート技術発展の2種類の現実的な道筋
- この分野における日中双方の協力の基礎及び将来

忌憚のないご意見をお
聞かせください！